



「第二次日本経穴委員会」便り

～第19回 食い違う環跳穴、中衝穴のゆくえ～

第二次日本経穴委員会副委員長 しのはらしょうじ
篠原昭二

3月の13～15日の間、第6回非公式会議が東京で開催され、最終的に全経穴について同意形成が行われる予定である。しかし、日本側の取穴法と中国および韓国側の提示した取穴法との間で大きく食い違う穴がいくつかある。その一つは環跳穴であり、もう一つは中衝穴である。

「髀樞中」とは一体どこ？

環跳穴の取穴法は、『甲乙経』には「在髀樞中、側臥伸下足、屈上足取之。(ヒスウの中に在り。側臥して、下足(＝下腿)を伸ばし、上足(＝大腿)を屈してこれを取る)」と記述されている。結局、「髀樞中」とはどこかが問題となる。「髀」は、太もも、太ももの骨を意味し、「樞」はとぼそ(扉の金具部分)、軸、中央、真ん中、機関といった意味があり、大腿外側の太乙神針付近のことを指していると考えられる。しかし、取穴法に関するそれ以上に詳しい記述は古典にはなく、「中国鍼灸穴位通鑑」によれば、大転子前面、前上部、大転子と腸骨の間(太乙神針附方)、大転子の後方などを髀樞として解釈している。

環跳穴の行方

環跳穴について日本では、「股関節を曲げたときにできる大転子前上部の陥中」(理療科)

あるいは、「股関節を深く屈し、股関節横紋の外端」(学校協会)に取るといった2種類の取穴がされている。

一方、中国と韓国では、「大転子と仙骨管裂孔を結ぶ線上で大転子から1/3」に取穴している。部位としては、明らかに坐骨神経をねらった取穴法として知られている。このように、中国・韓国案は大転子の後方にあり、日本案は大転子の前上方となっている(他にも大転子の上方といった取穴法も存在する)。しかし、中国・韓国とも坐骨神経刺鍼を目的として臨床に活用していることから、日本の股関節痛や大腿神経をねらった取穴法とは基本的に異なるのは当然といえる。非公式会議で臨床的な重要性や古典文献の記述に基づくことをベースとして、取穴位置の検討を進めているが、どちらが正しく、どちらが誤っているかといった結論は出せないのが現状である。どこで折り合いを付けるか、また表現方法で2穴の異なる経穴位置を標記するのかなど、成り行きを楽しみな経穴のひとつである。

中衝は一体どこ？

もう一つの大きなズレを持つのが中衝穴である。日本では、中衝穴の位置は「中指桡側爪根部、爪甲の角を去ること1分を取る」という

ことで、異論は出されていない。しかし、中国では「中指末節の尖端中央」とされ、韓国は当初「手の第3指、桡側、爪甲根部の角から一分。あるいは第3指の尖端1分」の二説を提示していたが、結局、中国案と一緒に中指先端説に同意を示した。

『甲乙経』には、「在手中指之端、去爪甲如韭葉、陷者中。(中指の端、爪甲を去ること韭の葉の如し、陷なる者の中に在り)」とあり、中指の先端で、爪の端から韭の葉に相当する距離(一分?)離れた陥凹部としている。

一方、『太平聖恵方』巻百(『黄帝明堂灸経』と同じ)には、「灸中指甲後一分、中衝穴一壮。(中指の甲の後一分、中衝穴に一壮を灸せよ)」と、『徐氏針灸大全』では、「中指内端」あるいは「在手中指内廉之端(手の中指の内廉(=内側)の端に在り)」とあり、日本案としての中指桡側爪甲根部を裏付ける記述が見られる。

本当に中指先端で良いのか?

『甲乙経』の記述は、取穴法を考慮する際に非常に重視される。中衝の記述は、「中指の端」であるが、足陽明胃経の厲兌(在足大指次指之端;足の母指の次の指の端にあり)、手少陽三焦経の関衝(在手小指次指之端;手の小指の次の指の端にあり)、足少陽胆経の竅陰(在足小指次指之端;足の小指の次の指の端にあり)、足厥陰肝経の大敦(在足大指端;足の母指の端にあり)、しかも大敦はその後に「去爪甲如韭葉及三毛中;爪甲を去ること韭の葉の如し、および三毛の中」と記述されている。本来三毛中というのは、足の母指末節背面に生えている毫毛(産毛のような毛)を指していることから、三毛中を重視すると位置がずれてしまうが、韓国・中国ともにこの説は捨てている。

結局、中衝、厲兌、関衝、竅陰、大敦はいず



れも同じ「指の端」でありながら、中衝のみが「指の先端」説を採用しているのはいかなもののであろうか。

また、『素問』(經刺論篇第六十三)には、「刺中指爪甲上、與肉交者。(中指の爪甲上、肉と交わる者を刺せ)」と記述されており、中衝穴が必ずしも中指先端ではないことが伺われる。もちろん、本説が関衝の誤りといった説があるのは事実であるが、完全に否定されているわけではない。

そして、指の先端には、経外奇穴として「十宣」がある。『千金方』によれば、「手の十指端の爪甲を去ること一分」とされ、手の十指それぞれに配当されている。したがって、中衝穴を中指先端とするならば、この十宣と同じ穴になってしまう。

日本側のこだわり

中国も韓国も中衝穴は中指先端としている。しかし、湧泉を除く他の井穴が全て爪甲根部の角に取っている以上、本穴も中指桡側爪甲根部に取ることが妥当と考えられる。なぜなら、本穴を中指先端に取らなければならない経穴学上の有力な裏付けがないのだから。

(〒629-0392 京都府船井郡日吉町 明治鍼灸大学)